プレスリリース（資料配付）

平成２９年１０月

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所四国支所

森林総合研究所四国支所　公開講演会

ー木材利用、新時代へー

・主伐期を迎えた人工林資源の有効利用が必要となっている。
・木造建築の新たな可能性として、CLTや耐火構造部材等の開発が期待されている。
・地方自治体における地球温暖化防止に向けたユニークな取組みも始まっている。
・四国の木材流通の現状を踏まえ、これからの木材利用について議論する。

概要

日本の人工林の半数以上が主伐期を迎え、資源を有効利用することが必要となっています。

木材利用の大きな割合を占める建築分野では、公共建築物等木材利用促進法が施行され、木造建築の新たな可能性が模索される中、直交集成板（ＣＬＴ）の開発に期待が寄せられています。また、中層建築物への木材利用に向け、木質耐火構造部材の開発も進められています。

木質バイオマスの利用に目を転じると、バイオマス発電のみならず、セルロースナノファイバーなど新たな化学原料としての利用にも近年、めざましい発展が見られます。

国産材の利用が森林整備の促進や地球温暖化防止に貢献するとの視点から、一定規模以上の建物の建設には一定量以上の国産材の使用を求める「みなとモデル」のような自治体レベルでのユニークな取組みも始まっています。さらに、環境への影響負荷を見える化し、他材料との差別化を図るため、ライフサイクルアセスメントの観点から木材利用をとらえる試みも進められています。

本講演会では、最先端の利用技術を紹介するとともに、四国の木材流通の現状も踏まえ、これからの木材利用についてご参加の皆様とともに論議を深めたいと思います。

◎詳細は別紙チラシをご覧下さい。

問い合わせ

国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所四国支所　支所長　原田　寿郎
広報担当部署：森林総合研究所四国支所　地域連携推進室
Tel：088-844-1121（代）　Fax：088-844-1130
Email：koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。